

晴耕雨読 30

青い大空に鯉のぼりが舞う季節となりました。皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか？



～松合の猿田毘古と勢い～

復元された宇城市不知火町松合地区の須の前眼鏡橋の北側に光暁寺がある。同寺の楼門には木彫りの猿(上のスケッチ)や竜等が鮮やかに飾られている。その楼門の南側右手に桃を持って鎮座しているのが猿。この猿のことを八代のミツのマスターに尋ねたところ、それは「猿田毘古」ではないか。猿田毘古は二二ギノミコトが天孫降臨する際に、地上へ道案内したと古事記に記述ありとのこと。では、今度松合地区に復元された須の前眼鏡橋への案内役がこの猿田毘古で道祖神や交通安全の神とも呼ばれる。時代に勢いを付けることが大切と言われるが、今回の復元事業が地域の活性化となる「勢い」になれば幸いである。h/n

■発行: 株式会社 建設プロジェクトセンター
建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業登録
〒869-1234 熊本県菊池郡大津町引水215-1 (技術研究所)
本社: 熊本市/八代支店/合志営業所
TEL:096-293-4400 / FAX:096-293-4885
E-mail: kenpro@muc.biglobe.ne.jp

■責任者: 中村 秀樹
～25年の節目は「学術実践の現実」～

熊本で平成元年8月4日会社を創設して今年25年の節目を迎える。主に高速道関連業務に約15年、その後、県や市町村関連業務に約10年。これ迄の道程は、あっという間の25年であったと思う。仕事を続けるうちに土木という職業が好きになった。土木技術とは何かを問い続け、気付かされたのが「人や生き物のために役立つ技術の提供であること」であった。今でも一貫して技術を通じて社会貢献することが使命と考えている。今後も学びて新しきを作る土木技術の原点である物づくりの「学術実践の現実」を基本理念に日々の研鑽を重ねたい。h/n

■勸学(朱子18歳の作「1130～1200南宋時代」)

請う勿れ 今日学ばずして 来日有り
請う勿れ 今年学ばずして 来年有り
日月逝けり 歳 我と延びず
嗚呼 老いたり 是れ 誰の慈ぢぞや

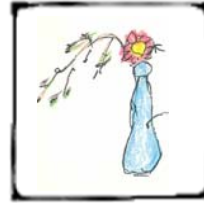
注釈: 今日 学ばなくとも明日があるなどとは言えない。努力とは まさに自分との闘いである。「今でしょ!!学ぶのは」



桃と桃



アケボノ椿

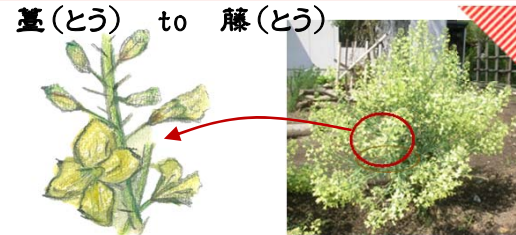


アケボノ椿と万作



■左は茶花スケッチ図。小職一年前から古儀茶道入門し、専ら稽古に精進中?

Rural environment 農村環境



蔓(とう) to 藤(とう)
右上の写真は何か分かりますか? 建プロ農園のブロックリーです。2月に収穫して以来、次々と食べごろサイズができていました。ついにこんな風にとろろが立ってしまいました。(私は、初めてみました(@_@)) こうなったら食べるのはあきらめて、代わりにその花の色をみて楽しみましょう。「とう」という言葉がでましたが、建プロにはもう一つ「とう」があります。藤です↓↓今が満開。我が社の方のお宅にも藤があるので、道路の両端が藤です。通りを行き交う人たちの目を楽しませてくれます(〇)!お近くにお越しの際はお立ち寄りください。i/o



建プロの社花(藤)



平輪農園

平成25年度会員募集
k-kan@ksn.biglobe.ne.jp



2月に農園で『麦ふみ』を行いました。農園で収穫した小麦は水車でゆっくりと製粉するので一般に売られている小麦粉と比べ色が少し茶色いのが特徴。国内の小麦は9割を輸入に頼っているのが現実で、その小麦には輸出途中に虫やカビを防ぐ目的で『ポストハーベスト(農薬)』が使われています。農薬が使われている事実を知ってはいいても、しょうがないと、目をそむけていた私。農園での活動に参加する機会を頂いてから、旬のモノを旬な時期に食べれる事のありがたさを知り、海外のモノより国内のモノそして地元のモノを子ども達に食べさせたいと思うようになりました。t/h



4月に入ると寒い冬を乗り越えた植物達が一斉に新芽を出して活動を始めます。道端に目をやると黄色の色鮮やかな菜の花が咲き、畑にはレンゲの花。そして野菜の植付けやブドウの剪定等は私の仕事で忙しくなります。t/h



自宅のブドウの木

Human Architecture 身近な環境と暮らし

～旬をいただく～

柔らかな春風とともに桜花からツツジ類へ花が移る四季彩豊かな時期を迎えています。熊本は、日本の中でも穏やかな気象環境と豊かな天然水を毎日あたりに享受できることに、あらためて恵まれた環境であることを実感し感謝する今日この頃です。

植物は、根に貯えたエネルギーを一斉に新芽に注ぎ、枝葉を出して今年度の光合成による貯えの準備をし始めています。この時期の味覚の旬は、竹の子です。竹山は持っていないなくても、おすそわけ(井上さんに感謝)して頂き、旬を味わえる事も熊本ならではの豊かな自然の恵みがあるからではないでしょうか。

竹の子は、竹の若芽です。「筍」という字は「旬内に竹の子となり、旬外に竹となる」ということや、1旬(10日間)にして親になる「成長の早さ」の意味があるようです。a/t



～願いを込め木を育てる～
菊池市が憩いの場として整備した『菊池川ふれあい清流公園』の河川沿いにもみじや山桜等を植樹して5年。下草刈り等のかきもあって木も少しずつ大きくなってきました。芽吹きに春の訪れを感じる今日この頃ですが、早く菊池川の川面に映える「もみじ」に育つことを楽しみに手入れを続けていきます。b/i

「まっちゃん」に須の前眼鏡橋が復元



①郷土史家 嶋谷力夫氏 ②石匠館館長 上塚尚孝氏 ③復元石橋全景

復元への強い思いを込めて14年。遂に「須の前眼鏡橋」が完成。宇土半島南側の中程に白壁で有名な宇城市不知火町松合地区がある。松合は地元の人には親しみを込め「まっちゃん」と呼ぶ。この松合は江戸時代は港として大きな商家が立ち並び隆盛を誇ったが、平成11年9月24日未曾有の高潮災害で尊い人命や財産が奪われた。その中に市の文化財であった須の前眼鏡橋も変状し解体された。解体された石橋は、近くの広場に保管され復元の機会を待った。復元の機会は14年後に訪れた。復元場所は、近くの道路脇の空地で小公園工事整備に関連して路面から高さ2.5m・幅4.5mの単一アーチで解体時の姿で復元。復元に尽力されたのは、写真①の郷土史家嶋谷力夫氏。工事中には何度も工事現場を訪ね熱心に見つめられていた。また写真②は石匠館長の上塚尚孝氏。同氏の石橋に対する熱心さには脱帽する。この他に石工育成講座講習生や施工業者や市の職員等の協力も見逃すことは出来ない。多くの人の思いが凝縮された石橋(写真③)を是非、見に出かけてみては如何ですか。近くには美味しいエビ入りダゴ汁屋さんもありますよ h/n

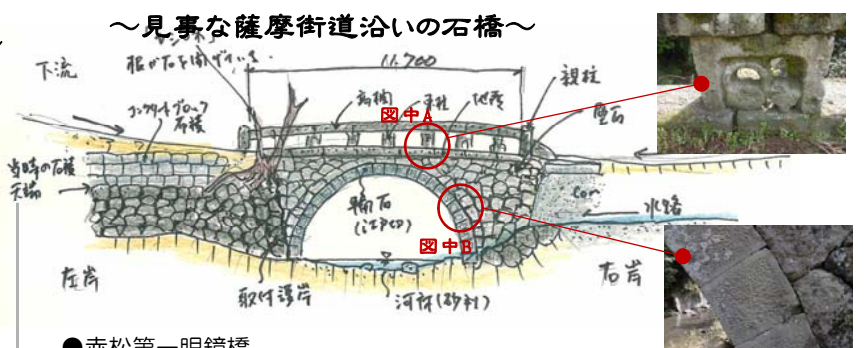
Civil Engineering 土木文化



～古石橋から学ぶ～

土木の世界でも役目を終えた施設は撤去され、安心・安全な施設へと改築されて今日に至っています。一般住民からすれば、安心・安全な新しい公共施設を要望することは、当然の権利だと思います。

しかし、近年の古民家ブームや地元有志による文化財保存活動等が起こっています。その流れは何かと考えると、人や動物の寿命は人間の手では難しい面もありますが、自分たちの先祖が作った施設や伝統は努力して後世に残すべき責務だと思い始めたからではないでしょうか。上の写真八勢橋は、1855年に構築された158才の石橋で私の幼少期には車両も往来していた橋梁です。しかし時代の流れの中で奥に見えるPC橋梁に代替され、石橋158才とPC橋30才が横並びで架橋されている光景は感慨深く思え、保存活動に当られた人々の想いが聞こえてきそうです。初老を迎えた私にとっては、この石橋からの教えを感じ、先人から後進への技術伝承の橋渡しになればと思っています。k/h



～見事な薩摩街道沿いの石橋～

●赤松第一眼鏡橋

今回は八代市二見にある石橋について触れてみたいと思います。対象となった橋梁は、嘉永五年(1852年)に架設。あの篤姫も通ったとされる赤松第一眼鏡橋です。本橋は、輪石の合端に隙間もなく非常に美しい石橋であり、この路線が当時の重要路線であったことが伺えます。さて、今回の調査結果では架設後161年経過していることもあり、高欄の変形や輪石にずれ等が見られました。今後詳細点検を実施し、補修・補強等の対策が必要ではないかと思えます。

また本橋は一般的な石橋と異なり、図中Aに示す様に束柱には急須や扇などが施され、また輪石側面には図中Bに示す「江戸切」と称される技法で仕上げられています。利用者の安全・安心を確保しつつ、細かい技を入れる当時の石工の心意気を私も含め今の土木技術者がもう一度見直すべきですね。k/n

～農業土木技術の存在～

近年、予期せぬゲリラ豪雨等による農業施設の被災で生産基盤が損なわれる等の社会的問題や貿易の関税を撤廃し自由に貿易する等参加により農業関連雇用問題も含めたTPP等の対応すべき課題は多岐にわたります。土木技術は経験工学が重要とされ、過去の災害経験をともに国土保全・安全確保等の技術は常に進歩しており、現在まで土木技術で守られた多くの社会資本があることを私は誇りに思います。農業土木は、農産物の生産性向上等を目的に農道や農業井手等の重要な施設を支え、活かす技術といえます。その一方で、若年者の土木業界離れや少子高齢化に伴う熟練技術者の減少を補うため、新たな土木技術者の育成や全体技術力の底上げが今後さらに重要と痛感します。t/m



阿蘇へ向かって一直線の農道(大津町引水)

■後記: 熊本県内には、スケッチや写真に残したい風景や美味しい・懐かしい郷土料理等があります。まだまだ、気をつけて見るとビューポイントや歴史の重みを感じる重要な景観などが沢山残されています。上記①内の四文字は「千里同風」といい、どんなに遠く離れていても、いたる所同じ風が吹くという意味合いです。